入間市では、令和4年2月8日（火）から令和4年3月9日（水）までの期間で「入間市ヤングケアラー支援条例（案）」に関して「パブリックコメント」を実施しました。その結果、10人の方から32件のご意見が寄せられました。寄せられた意見等の概要と、それに対する市の考え方を次のとおり公表します。

1	①	支援条例を制定する時間があったら、早急に支援が必要であるにもかかわらず届いていないヤングケアラーを把握し、市役所が積極的に支援を届けるアウトリーチが必要ではないか。公的支援や手続きなどは、大人でもわからない。
	回答	令和3年12月からヤングケアラー相談窓口を開設し、ヤングケアラー自身の他、保護者や学校等の相談に応じています。今後、ヤングケアラーに直接届く支援を検討してまいります。
	②	そもそも今頃になって、支援体制を整備したり、人材を確保したりすることは、市役所は今まで何もやっていなかったということなのか。令和2年3月に埼玉県が支援条例を制定したから、入間市もやってる感を演出するために、やむなく条例を制定しようとしているのが、事の本質ではないか。
	回答	ヤングケアラーの概念が広がる以前も入間市要保護児童対策地域協議会等において支援を行っておりましたが、条例を制定することで、ヤングケアラー支援のさらなる強化を図ってまいります。
	③	学校がヤングケアラーの早期発見に努めるとするならば、教師の負担が増えるので、さらなる少人数学級の実施、部活動の外部委託などの学校大改革が必要ではないか。市長が先頭に立ち、早急に実行すべきである。
回答	教員の負担軽減も併せ、学校と連携してヤングケアラー支援を推進してまいります。	
2	①	ヤングケアラー支援条例はつくるが、若者ケアラー支援条例はつくりたくない理由は何か？入間市は、18歳以上の若者ケアラーに対する敬意が非常に欠けている。若者ケアラー支援条例も同時に作るべき。
	回答	市では、ヤングケアラーに特化した条例を制定したいと考えています。若者ケアラー支援については、埼玉県のケアラー支援条例に基づいて対応を図ってまいります。
	②	関係機関に警察が入っていない理由は何か？ヤングケアラーを通り越して、親から身体的・性的・心理的虐待を受けている現実がある。豊橋市は警察とも連携して、ヤングケアラーの支援に取り組む方針になったので、大いに参考にすべき。
	回答	条例には警察を関係機関とは明記していませんが、関係機関であると考えています。豊橋市の取り組みを参考にしております。
	③	学校の教員がヤングケアラーを早期に発見するために、家庭内の私事に介入できる法的根拠はどこにあるのか？
回答	法的根拠は持ち合わせていませんが、子どもの健全育成という観点から家庭環境の状況把握は必要であると考えています。	

3	①	ヤングケアラーを発見するのは市の責務であり、学校を巻き込もうとしていることは、責務を放棄している。
	回答	日常的にヤングケアラーに関わる学校は、ヤングケアラーを早期に発見できる重要な場であると考え、学校と連携し、ヤングケアラーの早期発見に努めてまいります。
	②	教員にヤングケアラーを発見させる仕事まで頼むのは、教員の長時間労働を増やすだけであり、過労死が起きた場合、市は責任を取れるのか？
	回答	ヤングケアラーの支援を進めていく中で、教員の負担軽減も図ってまいります。
	③	地元精通している自治会役員が調査をすれば、すぐに発見できるはず。自治会同士で競わせ、発見に功績があった自治会に報奨金を上乘せすればよい。コロナ禍で自治会の行事が相次いで中止になり、活躍の場がなくて寂しくしている自治会役員には、うってつけの仕事であり、市に多大なる貢献をすること間違いなし。市も自治会役員をもっと有効に活用すべきである。
回答	自治会の役員等の市民の方へは、第8条に明記している役割を担っていただきたいと考えています。	
4	①	条例を作りたいならば、なぜ必要なのか、どういう効果があるのかを、市長自らが市民に対して丁寧に説明するのが、礼儀だと思いませんか？
	回答	記者会見、広報紙、講習会、リーフレット等を通じて丁寧に周知していきたいと考えています。
	②	人間ケーブルテレビの定例記者会見でも、ヤングケアラー支援条例について一言も言及していないのはどういうことですか？
	回答	3月24日の記者会見において「人間市ヤングケアラー支援条例制定に関するパブコメ及び支援の具体的施策について」説明いたしました。
	③	この条例は、大して重要ではないのですね。説明もできないならば、わざわざ条例を作る必要はないでしょう。
	回答	本条例は、社会全体で子どもの成長を支えることを目的に制定するものであり、大変重要なものと考えています。記者会見、広報紙、講習会、リーフレット等を通じて丁寧に周知していきたいと考えています。
5	①	未就学児や小学校低学年のこどもの休日にあずかる施設を増やしてほしい。親の仕事の間、年上の兄や姉が世話をしなくてはならなくなってしまう。
	回答	具体的な施策に関しては、今後検討してまいります。貴重なご意見として承ります。
6	①	支援とは具体的に何をするのでしょうか？
	回答	学習の機会を確保するための施策や家事の負担を軽減するヘルパー派遣事業等を検討してまいります。
	②	特に学校が行う支援は個別にどこまで行えるのか。条例に伴いお示しいただければ、ヤングケアラーの実態の理解と（市民が）何ができるか考え実行できるヒントになると思います。
	回答	校内の教育相談部会で、管理職や担任・学年主任、養護教諭を中心に、児

		<p>児童徒への環境整備や、保護者への働きかけ方、学習保障の方法について協議します。またさわやか相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどに相談対応を依頼します。</p> <p>校外ではこども支援課など他機関と連携して支援を行ってまいります。</p>
7	①	学校の在り方をもっと考えて欲しい。担任の役割を教育すべき。
	回答	教育委員会による学校訪問の際にヤングケアラー支援条例の説明や具体的な支援などについて説明し、その内容を職員会議・生徒指導部会・教育相談部会等で周知してまいります。
8	①	自治体の先陣を切ってヤングケアラー支援条例を制定し、支援に取り組まれる姿勢に敬意を表します。しかしながら、ヤングケアラーに焦点を絞ったの条例化に、主に次の2点から危惧を感じております。1 ヤングケアラーは、「18歳未満の者」と定義されていますが、18歳以降もケアラーであり続ける若者ケアラー等があります。
	回答	若者ケアラーには、埼玉県のカララー支援条例に基づいて対応を図ってまいります。
	②	2 親が障害のある子どもや医療的ケア児などのケアラーである場合、そのきょうだいである子どもがヤングケアラーであることも多く、親（大人）への支援がヤングケアラーへの支援になります。したがって、全世代のケアラーを対象とした包括的なケアラー支援条例が必要ではないでしょうか。全世代を対象としたケアラー支援条例の中にヤングケアラーの特性やニーズに即した支援について位置付け、支援を提供できる体制の構築こそ基本であり、ヤングケアラーを効果的に支援できるのではないのでしょうか。
	回答	貴重なご意見として参考にいたします。
	③	大人のケアラーが抱えている困難は、既存の福祉政策（の延長）でカバーできるという認識も一部にはありますが、ケアラー支援とはケアラー本人の人生を支えることであり、現在実施されているような要介護者へのサービスの拡充や追加のみでは、達成されません。全世代のケアラーが、それぞれに、ケアストレス、過労や社会的孤立、教育機会や就業機会・日常生活などの制約を受けています。ケアラー（ヤングケアラーを含む）が抱える基本的な困難を理解し、改善・解決をはかり、ケアラーのウェルビーイングを向上させていくためには、体系的なケアラー支援の仕組みが必要です。
	回答	埼玉県ケアラー支援条例に基づきケアラー全体の支援を推進していくとともに、早期にヤングケアラーの支援を推進するため、市ではヤングケアラーに特化した条例を制定するものです。
	④	関係機関に、学校等も含まれるのではないのでしょうか。
	回答	学校等は、関係機関には含んでいません。
	⑤	（早期発見）は、第10条（ヤングケアラーへの支援）に位置づけた方が、収まりが良いように思えます。
回答	ご意見を参考に第9条に規定しました。	
⑥	（保護者の役割）についてですが、保護者は病気や障害のある可能性があ	

		り、第三者の支援を受けて、「養育に努め」たり「支援を求める」事ができます。そのような支援環境を必要とする保護者への配慮が無いように思えます。
	回答	病気や障害等により、保護者自身も支援の対象となりうることは認識しています。貴重なご意見として受け止めさせていただきます。
	⑦	ヤングケアラー支援、ケアラー支援を社会全体で進めるために重要な事のひとつは、その存在と特徴について知ってもらい、理解を深める事ですので、「広報・啓発」は不可欠かと思えます。
	回答	埼玉県ケアラー支援条例に基づき「広報・啓発」を行ってまいります。
	⑧	条例で定めた事を計画的、包括的に進めるためには、庁内連携組織の構築や、当事者等をメンバーとした協議会等の参加型組織でのアイデア出しや進捗管理が必要であると思えますので、「推進体制」は必要かと思えます。
	回答	福祉、医療、教育その他関連分野において総合的に取り組むための連携体制を構築し、ヤングケアラー支援マニュアルを作成する等、支援体制の整備を図ってまいります。
9	①	ヤングケアラーということに法的定義はないようですが、厚生労働省では「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているような子ども」とあります。保護者の代わりに家事を担うことの全てが悪いわけではないとおもわれます。必要に迫られて家事をすることで、家事のスキルが身に付いたり、料理の楽しさに目覚めて将来につながったりすることもあります。それに、子ども自身も、家族の一員として大好きな家族の役に立つことが嬉しい、ということもあります。「援助を提供する18歳未満の者」というだけでなく、『勉強をする権利』や『休んだり、遊んだりする権利』こうした大切な権利を奪ってしまうほどの負担がある状態なのではないかと思えます。
	回答	貴重なご意見として受け止めさせていただきます。保護者の代わりに家事や家族の世話等を行うことはそれ自体悪いことだとは言いきれませんが、子どもの意見を尊重しつつ支援を行ってまいります。
	②	「ヤングケアラーへの理解」というより一人の人間として基本的人権を所有している「子どもの権利」への理解ではないでしょうか。ヤングケアラー状態にあることだけを理解したのでは、相対的貧困や虐待という問題を同時に抱えた子ども達のケアにならない恐れがあると感じます。
	回答	貴重なご意見として受け止めさせていただきます。
	③	「ヤングケアラーと認められる児童」とは誰が認めるのかわかりませんが、ヤングケアラーであってもなくても、子ども達のセイフティーネットとして学校としての役割はあると思えますので、認めるということが、ヤングケアラーのレッテル貼りになるのではないかと思えます。
	回答	貴重なご意見として受け止めさせていただきます。ヤングケアラーのレッテル貼りにならないよう配慮してまいります。
	④	先日の講演会で講師の方がおっしゃっていた「かわいそうだから支援しなくちゃいけないというのではなく、ヤングケアラーはケアラーである前に

		成長途中の子どもである」ということを関係機関は認識する必要があると思います。「ヤングケアラーであると認められる時」だけではなく、成長途中の子ども達が大切な権利を奪ってしまうほどの負担があるのであれば、周囲のサポートが必要だということだと思います。
	回答	子どもの権利が守られ、心身ともに健やかに成長できるよう必要なサポートを推進してまいります。
10	①	P2第6条（保護者の役割）「2項 保護者は・・・家庭が抱える困難に応じた支援を求めることができる」について例えばどんな支援を誰に支援を求めることができるのでしょうか？
	回答	以下の支援を市に求めることができます。 ・保護者からの相談への対応 ・幼いきょうだいの一時預かりや保育 ・家事代行ヘルパーの派遣（予定） ・障害、介護の法定サービス ・学習する機会の提供
	②	第7条（学校の役割）昨年7月に実施した「ヤングケアラー実態調査」によると小学校教員ならびに養護教諭のヤングケアラーに対する認知度が低い。またヤングケアラーと思われる児童を把握している教員が少ない。よって学校に教職員に対して周知することを義務付けてはどうか？
	回答	貴重なご意見として受け止めさせていただきます。ヤングケアラーに対する周知について、学校や教育委員会を含め、効果的な周知の方法を研究してまいります。
	③	第10条（ヤングケアラーへの支援）「2項 市は、ヤングケアラーの教育機会の確保が図られるよう必要な施策を講じなければならない。」市とありますが、教育機会の確保（学習の保障）を主に担っているのは「入間市教育委員会」です。よって「入間市教育委員会」と明示し責任を明確にしたらよいのでは？（第7条の意見と関連し）
	回答	貴重なご意見として受け止めさせていただきます。教育機会の確保は、学校や教育委員会に限らず、地域の資源も活用し、全庁的な対応を図ってまいります。
	④	第11条（支援体制の整備）別添R3. 5.18東京新聞（厚労・文科PTが報告書）にあります。支援団体を通じた悩み相談にオンラインを活用することを求めています。「1項のヤングケアラーに関する相談に応じるための相談体制を整備する」についてオンラインを活用すると明示してはどうか？
	回答	貴重なご意見として受け止めさせていただきます。効果的な相談体制を研究してまいります。